

若手職員の声～検務編～

～プロフィール～(令和6年11月時点)

宮崎地方検察庁 採用1年目(高卒程度試験)

現在の部署:検務(事件)



Q1 今はどんな仕事をしているのですか？

事件令状事務を担当しており、主に警察から送られてくる事件の受理・点検、検察官が捜査を終えた事件を裁判所に起訴するまでの処理、勾留状などの令状が発付された際の手続や処理などを業務として行っています。

Q2 どんなときにやりがいを感じますか？

私が所属している部署は、警察から送致されてきた事件を、検察庁の中で最初に受け取る場所です。

送致書類に不備があるまま受理をしてしまうと、その後の捜査に影響が出てしまうので、とても重要な役割のうちのひとつだと私は感じています。

迅速かつ正確に書類の点検を終えることができたときや、不備を見つけ、警察官に連絡して正しく訂正され、受理後の捜査につなげることができたときはとてもやりがいを感じます。

印象に残っている仕事は、保釈中の被告人を収容して刑務所に引き継いだことです。

初めての経験だったので緊張感もありましたが、判決を聞き、その後の流れを見ることができたので良い経験になりました。

Q3 入庁する前のイメージと違ったことはありませんか？

入庁する前のイメージと違ったことは、仕事の雰囲気です。

法律を扱う仕事なので、職場や職員同士の雰囲気はとても厳しく緊張感のあるイメージでした。

しかし、実際に勤務して肌で感じてみると、業務に取りかかる姿勢は真剣かつ丁寧であるものの、業務が落ち着いた時間はもちろんですが、忙しい時間帯でも職員同士が助け合い、良い雰囲気で行われていたので、緊張感もありつつ温かい雰囲気もある働きやすい環境だと感じました。

入庁した当初はとても緊張していましたが、すぐに職場に慣れることができ、働きやすい環境で業務を行えることに感謝しています。

Q4 初等科研修ではどんなことをするのですか？

初等科研修では約1か月間、九州内の他県の検察庁の同期と同じ寮で生活をしながら、検察庁で業務を行う上で必要な知識を学ぶための講義を受講したり、検察庁はどのような機関なのかを学んだりします。

また、検察庁についての必要な知識を学ぶことも重要ですが、他地検との交流を深めることも重要だと気付きました。

これから検察庁で働いていく上で必ず関わっていくことになる他地検の同期と仲を深める機会はなかなかないので、この研修期間内にしっかりと交流を深めることができ、とても良い経験になりました。

Q5 宮崎地方検察庁の魅力を教えてください！

宮崎地方検察庁は職員同士の仲が良く、良い雰囲気です。業務を行えるところが魅力です。

またサークルの中でもバレー部は、月1回練習を行っており、仕事の息抜きにもなっています。

また、検察庁の場所も駅から近いため通勤しやすいですし、宮崎県は暖かい気候で日照時間が長いので、駅からの通勤時にも太陽の光をたくさん吸収できます！

Q6 最後に検察事務官の先輩として一言お願いします！

入庁して覚えることや勉強することたくさんありますし、自分が検察庁の一員として業務を行えるかなど不安がたくさんあるかと思います。

しかし、知識が浅くても上司や先輩方に質問したり、実践形式で経験を少しずつ積み重ねることで、自分ができることが増えていき、自信にもつながっていききました。

どのようなことでも、自信をつけるには行動と経験が必要だと私は思うので、受験も同様に、まず行動し、自分の弱点や強みを見つけ、克服したり伸ばしていく経験が合格につながると思います。

結果は人それぞれですが、それまでの過程と経験が自身を成長させてくれるので、今できることを精一杯頑張ってください！

陰ながら応援しています。

次回の更新もお楽しみに！